



2024
No.405 12月号

News

全国整備工場の皆様へ
NGP組合員200拠点がお届けする
お役立ち情報

2024年12月19日発行
■発行責任者/佐藤幸雄 ■編集・制作/(株)プロトリオス
■発行/(株)NGP 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F TEL03(6705)1212

さらなる高品質化に向けて表彰制度を拡大!

NGP、クレーム発生率史上最も低い **0.7%!!**

NGPは1985年の創設以来、「お客様第一」の理念のもと、リユース部品の品質向上を最も重要な目的として、組織運営を進めてまいりました。

品質向上を目指した取り組みの一つとして、組合員各社における製品不良等のクレーム発生率を集計しています。規定されたクレーム発生率を超えた組合員に対しては現地調査の上、改善指導などを実施することで、お客様に満足していただける商品作りを徹底してきました。また、組合員各社のクレーム発生率は全国の各ブロックで毎月開催される社長会でも公開しており、組合員同士で改善に向けた意見を出し合うこ

とで、品質向上を目指してまいりました。

さらにNGPでは、商品品質に対する意識向上を目的として、年間クレーム発生率が低い支部及び組合員企業上位5社を総会で発表する表彰制度を設けています。これまで（2023年開催・第19回総会まで）は、全体の発送点数が平均以上である組合員のみを表彰の対象としていました。しかし、クレームに対する意識をさらに向上させ、高品質な商品をお客様に届けるためには組織全体で取り組む必要があると考え、第20回総会からは平均よりも発送点数が多い組合員を対象とした従来の部門（優秀発送点数部門）に加えて、平均よりも発送点

数が少ない組合員を対象とした部門（堅実発送点数部門）を新たに創設しました。同時に表彰金も引き上げており、表彰制度の強化・拡充による組織全体のさらなる意識向上を図りました。

これらの取り組みの結果、NGP全体のクレーム発生率は「0.7%」と、非常に低い値を達成することができました。これは集計開始以来最も低い数値であり、表彰制度拡充の効果が早速表れたと考えられます。

NGPIは、お客様に常により良い高品質なリユース部品を供給し続けていくため、今後も様々な取り組みを推進してまいります。

低クレーム発生率
支部表彰

中四国支部

クレーム発生率
0.55%



小林信夫理事長（右）と中四国支部担当・弘内英一郎理事

中四国支部担当・弘内英一郎理事
受賞コメント

この度はこのような賞をいただき、誠にありがとうございます。

支部としては、毎月開催される全支部のメンバーが集まる月例会にて、クレーム発生率の確認を行っております。確認し、特に発生率が悪い会社については、どのような状況なのか、どのように改善できるかなどのヒアリングを行うことで、クレームを無くすことに努めています。

一方で、支部のメンバーには、組織内でもクレーム発生率が低い会社が多い数いるので、月例会ではもちろんのこ

とですが、3ヵ月に一回開催される、全支部メンバーを対象とした実務担当者会議でも、どのようなことをやって、クレームを発生させていないかなどの好事例を共有しています。このような取り組みを繰り返すことで、製品品質向上に対する意識を高めてきました。

我々NGPの使命は、高品質なリサイクル部品を作り、お客様に満足していただける商品を提供することです。今後も安心な商品を作り、ぜひ次年度も受賞を目指したいと思います。

NGP、 「令和6年度資源循環技術・システム表彰」で 「脱炭素成長型経済構造移行推進審議官賞」を受賞

NGP協同組合は、一般社団法人産業環境管理協会が主催する「令和6年度資源循環技術・システム表彰」において、「カーボンニュートラルの実現に資する自動車リユース部品でサーキュラーエコノミーへの移行を加速」というテーマで「脱炭素成長型経済構造移行推進審議官賞」を受賞しました。

「資源循環技術・システム表彰」は、資源・エネルギー使用の削減、3R（リデュース・リユース・リサイクル）など資源循環の普及や循環経済（サーキュラーエコノミー）への移行に寄与する技術・製品開発、ビジネスモデルの構築、取り組みなどを表彰することを目的とした表彰制度です。

NGPは自動車リサイクル事業を行う中で、再利用可能な部品を取り外し、美化作業と厳正な検査を経て「自動車リユース部品」として商品化し、再び社会に提供しています。

また、明治大学及び富山県立大学との産学共同研究により、リユース部品のCO₂削減効果を定量化することで、ユーザーに対する環境貢献度の見える化を実現しています。さらに品質管理においても、ルールと研修体制の確立により、組合員の部品生産、登録業務を標準化することで、品質レベルのそろった商品を在庫し、販売面でも統一の品質保証書を示すことで安心して購入いただける体制を確立しています。

そしてリユースはもとより、再利用できないものに対しても、いかに資源としてリサイクルし、原料としてサプライチェーンの上流に戻していくかに重点をおき、部品のリユースと資源としてのリサイクルに積極的に取り組んできました。

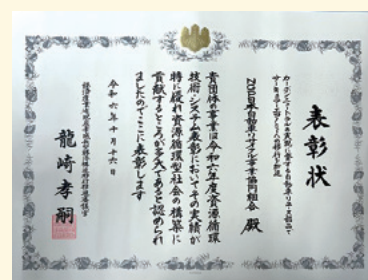
資源循環において非常に重要な取り組みであるリユースを促進することで、サーキュラーエコノミー及びカーボンニュートラルの実現に寄与するとともに、CO₂削減効果の数値化をはじめとした長年の取り組みが持続可能な循環型社会の実現に貢献している点が高く評価され、審議官賞の受賞に至りました。

今後もリユース部品及び産学共同研究に基づくCO₂削減効果のさらなる普及を図り、リユース部品の利用拡大を目指すとともに、廃棄物の発生抑制や素材の再資源化の推進、

環境保全の大切さを子どもたちに伝える活動に取り組むことで、カーボンニュートラル及びサーキュラーエコノミーに貢献してまいります。



10月16日に開催された表彰式の様子



「令和6年度資源循環技術・システム表彰」の表彰状(左)と盾

NGP 今月のCO₂削減量

リサイクル部品利用に伴うCO₂削減量

令和6年10月: **2,216t**

※自動車リサイクル部品産学共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の90品目（左右ある部品を含むと115品目）と、リビルト部品の3部品を対象に算出した数値です。

リターナブル梱包材利用に伴うCO₂削減量

令和6年10月: **0.6t**

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

ジャパンモビリティショービズウィーク2024開催

幅広い業界との企業連携を目指した 新形態のビジネスイベント

日本自動車工業会（自工会、片山正則会長）は10月15～18日の4日間、「ジャパンモビリティショービズウィーク2024」を幕張メッセ（千葉県千葉市）で開催しました。

幕張メッセの1ホールのみを使用し、2023年開催時の「スタートアップフューチャーファクトリー」と「ジャパンフューチャーセッション」を切り出したような形

態の、比較的小規模なビジネスイベントとして企画・運営されました。

自動車産業からモビリティ産業への進化・発展を図るべく、自工会会員カーメーカー各社や日本自動車部品工業会会員会社、事業会社が計58社のほか、スタートアップ145社が出展しています。

また情報・エレクトロニクス関連の展示会「CEATEC2024」（主催：電子情報技

術産業協会）と併催する形を採ることで、出展者同士のビジネス交流が積極的に行われました。

なお、2025年は2023年と同様の大規模なショーケースイベントとして、「ジャパンモビリティショー2025」が10月30日から11月9日までの11日間、東京ビッグサイト（東京都江東区）で開催される予定です。



本田技研工業

アメリカで生産されている新型6代目「CR-V」をベースとして、GMと共同開発の燃料電池システムを搭載。外部充電も可能にした「CR-Ve:FCEV」の市販モデルを展示



トヨタ自動車

将来の市販車への搭載を見据えた技術開発を主眼としてスーパー耐久シリーズなどに参戦している「液体水素エンジンGRカローラ」とそのタンク・ポンプを展示した



スズキ

「水素燃料電池荷役運搬車」(左)や電動モビリティ「スズカーゴ」(中央)、「スズライド」(右)を参考出品し、それぞれの技術進化やサービス発展が可能なパートナーを募集



日産自動車

アカチャンホンポと共同開発した子守り支援ロボット「イルヨ」に車内置き去り事故防止機能を追加した「マダイルヨ」を紹介。量産化の実現可能な玩具メーカーなどを募集した



ダイハツ工業

BEV軽トラックのコンセプトカー「ユニフォームトラック」を出品したほか、「地域が抱える課題に対する研究開発」をテーマにした様々なプロジェクトをパネル展示



マツダ

CX-80ディーゼル車をベースとする、微細藻類由来の次世代バイオ燃料で走行可能な「バイオフィューエル車」を参考出品。同燃料の製造過程とその普及への取り組みを紹介した



三菱自動車工業

10月9日発表の大幅改良したアウトランダーPHEVの実車に加え、同車の使用済みバッテリーを再利用し日中に太陽光発電、夜間にLEDを点灯する自律型街路灯のモックアップを展示



SUBARU

位置情報と連動した音声ARシステムを用い、走行する地域の歴史や物語を伝えながら景色に合わせた音楽を再生するスマートフォン向けドライブアプリ「SUBAROAD」を紹介した



京都機械工具

ホイールナットの締め付けトルクやタイヤ溝・ブレーキパッド残量の計測結果などを自動的に記録・管理しトレーサビリティを確保できるデジタル工具や「TRASAS」シリーズを訴求

NGP組合員 かわら版

サーキュラーエコノミーの推進と環境教育支援の取り組み

(株)オートパーツ伊地知、 地元の小・中学生の工場見学を受け入れ

NGP組合員である(株)オートパーツ伊地知(伊地知志郎社長、鹿児島県鹿児島市)は10月18日、地元の小学生合計125名の工場見学を受け入れました。

同社は、自動車リサイクルと環境問題に関心と理解を深めてもらうことを目的として、工場見学を積極的に受け入れています。今回は、鹿児島市立桜洲小学校の4・5年生17名(公益財団法人自動車リサイクル促進センター主催)、鹿児島市立錦江台小学校の5年生108名が、自動車リサイクルについて学ぶための社会科見学として、同社工場を訪れました。

見学に訪れた子どもたちには、「NGPアップサイクルプロジェクト」にて、使用済み自動車の取扱説明書をアップサイクルして製作された「環境教育ノート」を配布しています。このノートを用いて、自動車リサイクルとSDGsの関わり、さらにはオートパーツ伊地知及びNGPの取り組みについて学習しました。

工場見学では、役割を終えた自動車が工場に入庫するところから、エアバッグやオイルなどの適正処理、リユース部品の生産、鉄や銅などの分別、解体の流れについて各工程で詳細に説明しました。子どもたちは、取り外した部品を実際に触ったり、エアバッグ展開後(煙が消えた後)の運転席への乗車なども体験することができ、普段見ることができないリサイクル工場の仕事内容に興味を尽きない様子でした。

見学会において、子どもたちからは、「1日何台の車を作業するのか?」、「1日の解体台数はどのくらいか?」、「1台あたりの作業時間はどのくらいか?」、「この会社に入った理由は何か?」など多くの質問があり、関心の高さがうかがえました。

読売KODOMO新聞で 同社の取り組みが紹介される

オートパーツ伊地知は、小中学生の工場見学を積極的に受け入れるとともに、鹿児島市の環境学習の拠点施設「かごしま環境未来館」の登録団体として講座を開催するなど、子どもたちへの教育支援に積極的に取り組んでいます。

また同社は、使用済み自動車からのリ

ユース部品の生産や車体の精緻な解体及び素材ごとの徹底的な分別によるリサイクルに加え、工場に太陽光発電設備を導入するなど環境保全と資源循環によるサーキュラーエコノミーを推進してきました。

読売KODOMO新聞10月10日号では、子どもたちに自動車リサイクル事業者の取り組みを紹介することを目的とした自動車リサイクル促進センターの企画記事の中で、オートパーツ伊地知の取り組みが紹介されています。

NGPは、引き続き自動車リサイクル事業を通じて、サーキュラーエコノミーの推進とこれからの時代を担う子どもたちへの教育支援活動に取り組んでまいります。



NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0075 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F
TEL:03-6705-1208 FAX:03-6705-1209
<https://www.ngp.gr.jp/>

株式会社NGP

〒108-0075 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F
TEL:03-6705-1212 FAX:03-6705-1201
<https://www.ngp.co.jp/>